

量子論と熱力学の比較

#記憶

#歴史

#忘却

#状態

#認知

研究
内容

量子論のEPR現象と歴史学の比較からは、記憶・歴史は、物質の基本的な性質であることが推察されます。日常生活では、記憶がなければ、昨日の事象を一日前の事象として認識することはできず、時間という概念は重要な意味を持たなくなります。これは、知性を持った物質の意識レベルで起こる特殊な現象ではなく、むしろ物理法則に従うようにみえる物質全般が基本的に持つ特徴のように思えます。量子論と熱力学の比較検討、例えば、熱力学における「孤立系」、「状態量」等の諸概念の再検討は、ヘルスケア分野における認知症対策にもつながっていくように思われます。

本の状態は、読者（観測者）が変われば変わる。その本の著者ですら、はっきりと決まった状態に定義することは不可能である。
巨視的物体の「本」でも、それは決まった状態にあるとは言えない。

本の状態 { 物質としての本（紙＋インク）・・・粒子像
本の内容（情報）・・・・・・・・・波動像

他から孤立した無関係な客観的存在として、本の状態を定義することは**原理的に**不可能である。

「原子的現象のより詳細な分析の恣意的な断念ではなく、そのようなたまたまいった分析が**原理的に**排除されているということの認識」
山本義隆 編訳、ニールス・ボーア論文集I 因果性と相補性、岩波書店(1999) 262。

「日常の常識や直観が通用しないミクロの世界の理論」ではなく、むしろ逆に、「**日常の生活で感じる常識的な物質観が、ミクロな物質粒子のレベルでも成り立っている**」ことを言っているのが量子論ではないか。

Develop+

応用分野

医療・ヘルスケア分野、省エネルギー、グリーンテクノロジー



高原 渉 TAKAHARA Wataru

マテリアル生産科学専攻 助教

生産プロセス講座 ノベル・ジョイニング領域



論文・解説など

- 1) 高原渉, DV-Xα研究協会会報, 15 (2002) 35-39.
- 2) 高原渉, 大阪大学学術情報庫OUKA, <https://hdl.handle.net/11094/79126>
- 3) 高原渉, 大阪大学学術情報庫OUKA, <https://hdl.handle.net/11094/103956>

連絡先HP

